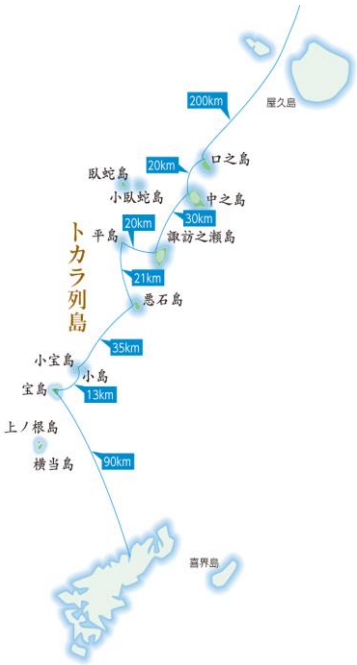
地域・離島歯科医療実習　レポート

学籍番号：　4314100424　　氏　名：　渡邉 祐奈

実習先：　口之島　　実習期間：令和 元年 12 月 13 日　～ 12 月 15 日

１．自然環境

口之島は鹿児島市から 204 ㎞、トカラ列島（口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島、宝島）の最も北に位置する十島村の玄関口である（現在無人島である臥蛇島を除く七島で十島村）。



立地：

北緯 29 度 58 分 0 秒

東経 129 度 55 分 0 秒

面積：13.33 ㎢

周囲：20.38 ㎞

燃岳と前岳を中心とした火山島で、両山の間には安山岩質の溶岩ドームも形成されている。

有史以来火山活動は記録されていないが、燃岳からは水蒸気の噴煙がみられる。

固有動植物；タモトユリ、トカラヤギ、野生牛(純血種の黒毛和牛)など。

また、アダン（亜熱帯から熱帯の海岸付近に生育する常緑小高木）の北限にあたる。

トカラ列島は温帯と亜熱帯の中間に位置しており、鹿児島市内よりもやや温暖であるが大きな差はない。気候としては種子島に類似する。風が強く、雨も多い（年間降雨量は東京の約２倍）。

２．社会的背景

2018 年３月 31 日現在、75 世帯 129 人の島民が暮らしている。男女比は１：0.8 程度で男性がやや多い。口之島の人口は減少傾向にあり、この原因としては、高校がないため中学校卒業後には島外へ出ざるを得ない環境であることや、経済発展による都会への流出が考えられている。

十島村での出生数は 2010-2013 年の平均で年間 2.5 人、合計特殊出生率は 2008-2012 年で平均 1.49 であり、全国平均よりは高いが県の平均は下回っている。

死亡数は 2010-2013 年の平均で年間 8.5 人であり、自然減が６人である。

最近では他の地域からの転入（U ターンや I ターンなど）が増加し社会増となっているが、転出数も人口の１割程度を占めている。

2010 年現在の統計によると、口之島の島民 138 人のうち最も人口の多い年代は男性が 55～59 歳（13 名）、女性が 80～84 歳（12 名）で、75 歳以上の後期高齢者は 43 名と３割以上を占める。一方で、10～19 歳が 10 人、0～9 歳は０人であり、高齢化が顕著であるといえる。

国勢調査によると、産業別人口は第一次産業（農林水産業）が 17 名、第二次産業（工業）は 13 名、第三次産業（商業・公務・サービス）従事者が 26 名で約半数を占める。人口として最も多いのは農業と建設業であり、主な生業は農業であるといえる。

農業	漁業	建設	教育	医療	販売	飲食・宿泊	電気・ガス等	公務	サービス
14	3	13	9	1	4	5	3	2	2

歴史的には、平家伝説が残る島の一つであり、壇ノ浦敗戦軍の者たちが『山伏の島下り』と名付けて小船４、５艘でこの島にやってきて源氏の襲来を恐れて城を築いたといわれる。

トカラ列島は室町時代には種子島氏が支配したこともあり、琉球の力が及んだこともあった。江戸時代には島津氏の直接支配の下にあった。

明治８年、北の三島（竹島、硫黄島、黒島）とともに川辺郡に属することになったが明治 18 年には大島郡に所属させられ、明治 41 年に初めて町村制を敷いて十島村と称した。

昭和 21 年（1946 年）北緯 30 度以南がアメリカ支配となり三島とは分かれることとなり、昭和 27 年に本土復帰した後も三島は三島村、七島は十島村として発足した。

３．住民の生活

口之島の文化は鹿児島に近いとされるが、歴史上の支配や地理的な環境から、琉球や奄美の文化の影響も受け、独特な風習・習慣が築かれている。

現在では行われていないものも存在するが、口之島には多くの年中行事がある。

七島正月：旧暦の 12 月に行われる十島村独自の正月。口之島では太平洋戦争中から行われない。
浦口祭い：七島正月明けの祈祷・祭り。
ヒチゲー：旧暦 12 月 16，17 日に行われる。神様の集合がある為外出や睡眠に制約がある。
旧正月：旧暦の正月。現在は行われない。七島正月では供え物をせず旧正月に行う。
山の神祭りと伊勢大神宮の祭り：正・五・九月に行われる
二十三夜待ち：正・五・九月の 23 日に米粉の団子を備える。現在も行われる。
カライモ祭り：旧２月 1～3 日に行われる。３日は正月にあたる。
祈祷日：旧２月９日に運の良い方向に向かい祈祷する
彼岸：岳参り（タケメイ）、墓参りなどをする。三日間のうち中日に仕事を休む。
三月ン節句：旧３月３日の桃の節句。
漁の願立て：旧３月４日に男が漁の願を立てる。
御釈迦さんの日：旧４月８日、花祭りの日だが特に行事はない。
五月ン節句：旧５月５日、端午の節句
作の祈念：旧５月 15 日。
祈祷日：旧１月 11 日と旧６月１日、運勢の良いよう祀る
祇園サマ：旧６月 15 日、盛り膳し家内中で食べる
アワの祭い：旧６月６，７日頃今年は大風が吹かんようにと拝む。一般の人は休業。
七夕：旧７月７日
お盆：旧７月 13～16 日。墓参りや踊りの日時も決められている。
八朔の節句：旧８月１日、新米を炊きウチガミに供える。
コメの祭り：旧８月初めの丑の日に麹を立て、それから 13 日目に祭りを行う。
十五夜：旧８月 15 日、団子・餅を供え、綱引きや宴をする。
九月九日：旧９月９日にウチガミに菊を挿し拝む
日待ち：旧９月 10，11 日に団子 365 個を祀り、各家にお守り札とともに配る。
十八夜待ち：旧９月 18 日の晩、餅や米の団子を供える。
十月亥の日：旧 10 月亥の日に北山の神が出雲大社に持参する餅を祀る。
神様のサカムケ：旧 10 月 28 日、出雲大社から神様が帰るため拝む
芋の祭り（霜月祭り）：旧 11 月初めの丑の日に酒の麹を各家で作り、13 日目に祀る。

２月（カライモ祭り）、６月（アワの祭り）、８月（コメの祭り）、11 月（サトイモの祭り）と１年に４回、台風や干ばつに合わず作物が良く実るように祈願する祭りが行われるが、作物ごと・季節ごとに神様に祈る点や、畑の作物が重要視される点に特色がある。
また、行事の際には仕事を休むこともしばしばある。

口之島での主な収入源は、先述の通り農業や建設業、教育関係である。かつては棚田で稲作が行われており、現在でもその跡が残っている。

教育環境は、口之島小・中学校がある（右の写真は小中学校の正門）。
高校はないので、中学校を卒業すると多くは島を離れている。

４．医療供給体制

口之島には診療所があり、看護師が常駐して平日の 9 時～12 時及び 13 時～17 時に診療が行われている。ただし、医師は月に２回巡回診療で訪れ、歯科診療は多くても月に１度である。

緊急時や、巡回診療のみでは治療が完結しない場合は、本土や奄美大島で行う。
ドクターヘリでの搬送が必要な場合の為にヘリポートがある。

実習概要

日　付	内　　容
12/13	23 時 フェリーとしま２に乗船
12/14	5 時 口之島港到着 8～9 時 診療準備 9～12 時 診療…根管治療（デンタルＸ線写真撮影） 12～14 時 休憩・昼食 14～17 時 診療…義歯調整、限局性歯周炎（デンタルＸ線写真撮影） 17 時 片付け
12/15	8 時～9 時半 診療…埋伏智歯周囲炎（デンタルＸ線写真撮影） 9 時半 片付け 11:50 フェリー乗船 18 時 鹿児島港到着

振り返り記録

ⅰ)生活・交通

口之島を含む十島村への移動手段はフェリーもしくは船をチャーターするほかない。

今回私達も利用したフェリーとしま 2 は鹿児島市から週に 2 往復の運航で、最も近い口之島まででも片道約 6 時間かかる。自分が実家に帰省する際よりも長い時間を要し、手段や頻度も制限されているので、本土との移動が気軽に行える環境とはいえないと感じる。

島には診療所や売店があるが、売店の営業時間は 1 日のうち 4 時間程度で、診療所に医師はいない。私達が訪れた時、売店は午前のみの営業だった。販売されている商品は食料品が主で、値段は本土とほぼ変わらなかった。

口之島は全体的に坂が多く（平坦なところが殆どない）、そのせいか高齢の方でも原付や自転車に乗っていたり、体幹がしっかりしていたりと、足腰が強い印象を受けた。

食事は、宿で食事をした際に受けた印象だが、魚などは新鮮で豊富だったが、野菜が限られていたように感じた。口之島で栽培されないものは流通が難しいからだろうか。

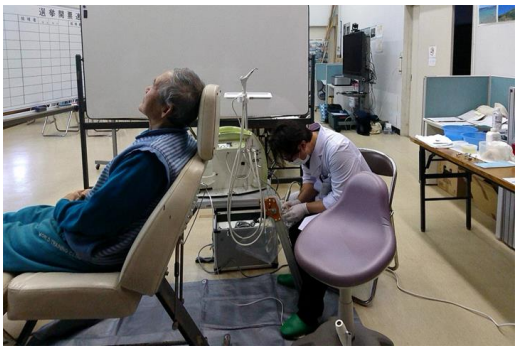
ⅱ)診療（医療）

今回の実習行程ではユニット付きの診療車が利用できなかったため、コミュニティーセンターにチェアを設置してポータブルユニットを用いて診療を行った。

診療 1 日目の午前は、患者さんは 1 人だけだった。聞くとその日は餅つきがあったらしく、島においてはイベントが優先されるということを実感した。

午後も初めはあまり患者さんが来ず、３名を家まで迎えに行った。それを境にしたように患者さんが来はじめたが、皆同じような時刻に来ていたのが印象的だった。

高齢化が顕著と上に記載した通り、診療に来る人も高齢者が多く、内容は義歯に関連するものが殆どだったが、30 代前後の若い世代や子供にも会い、統計で受ける“若い人が居ない”というイメージとは少し異なるようにも思った。



ⅲ)感想

せっかく鹿児島に居るのだから離島に行ってみたいという思いと同時に、口之島などの小さな島に、次に行く機会もなかなかないだろうという軽い気持ちで今回参加してしまいましたが、正直に言って、都会での生活経験しかない私にとって、離島での生活は全く想像のつかないものでした。

事前に調べている段階から、島の外への交通手段はフェリーのみ、それも一週間に２往復、島民は 120 名程度、看護師が一人常駐するのみで医師もいない…失礼ながら、何故本土に移住しないのだろうという思いしか沸きませんでした。

実際訪れてみると、確かに不便な上に島には坂も多く大変そうなのは実感しましたが、同時に、熱帯を感じさせる植物がたくさんあり、波があっても澄んだきれいな海があり、島民の方々も笑顔で優しく、海の幸など料理もおいしく、とても魅力的な土地だとも感じました。

個人的には、約 20 年に渡り最も苦手な食材だった筍が食べられたことが何より印象的です。

診療に関しては、内容が多岐に渡るというよりも、殆どが全部床或いはそれに近い義歯に関することであったのも島ならではなのか、などと感じたり、また勝手なイメージとして、歯科に行く機会が少なく優先順位も高くないことから口腔内や義歯の環境はあまり良くないと想像していたのですが、手入れがきちんととなされている人も多く、離島診療に対してより興味がわきました。

また、大学病院で物品棚やチェア周りの引き出しに収納されている時には気付きませんでしたが、コミュニティーセンターの壇を埋めるほどの衣装ケースに詰められた器具を準備・収納していて、改めて歯科診療に用いる材料や器具の種類の多さを実感したほか、普段ブローチ針などディスポにしている物でも、滅菌して複数回利用されているのを見ると、大学病院という環境が恵まれているのだと感じました。一方で、ポータブルの診療機器やＸ線写真撮影用のカメラなどを実際に経験したことで、設備が完全に整っていなくても歯科治療が可能だということも実感として学べたように思います。

とはいえ、交通の便がある程度整備された鹿児島市内では至る所に開業歯科医院があり、大学病院と市立病院もあるのに、地理的に制限のある島では歯科医師の一人もいないというのは、やはり改善すべき点だろうと感じます。もちろん経営面も重要なので歯科医院をただ作ればいいとは思いませんが、最低でも１ヶ月か２ヶ月ごとに巡回できた方が良いのではないでしょうか。

今回の実習は、離島という初めての環境に入り、初めての食材を食し、初めて病院とは異なる設備下での診療を体験し、改めていろいろなことを考えさせられると同時に、とても楽しく良い経験となりました。機会があれば、他の島も含めまた参加したいと思います。

【参考文献】

・『南日本の民俗文化誌 3 トカラ列島』下野敏見、南方新社、2009 年第 1 刷
・十島村 まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「総合戦略」
平成 27 年 12 月 21 日 鹿児島県十島村
・口之島 - 十島村役場公式サイト(http://www.tokara.jp/profile/gaiyou/kuchi/)